

全高書研會報

全日本高等学校
書道教育研究会

事務局(代行)
群馬県立吉井高等学校
〒370-2104
群馬県高崎市吉井町馬庭1478-1
國定 貢
TEL0000-00-0000
FAX0000-00-0000

出版部
三重県立いなべ総合学園高等学校
〒511-0222
三重県いなべ市員弁町御園632番地
天野 太輔
TEL 0594-74-2006
FAX 0594-74-4104

印刷
光出版印刷株式会社
〒515-0044
三重県松阪市久保町1885-1
TEL 0598-29-1234
FAX 0598-29-0265



全高書研が果たす役割

全日本高等学校書道教育研究会 副会長
森 典英
(三重県立伊勢高等学校校長)

全国の高等学校等で活躍されている書道教員の皆様、日頃の教育現場でのご尽力、誠にありがとうございます。皆様熱心な指導により、多くの生徒たちが書道を通じて日本の伝統文化に触れ、その素晴らしさを体験していることに深く感謝申し上げます。

私は全高書研副会長を拝命して三年目となりました。本年度もどうぞよろしくお願いたします。

私と全高書研との関わりは、平成二年十一月に開催された新潟大会からとなります。教員になって三年目で初めて全高書研の大会に参加しましたが、分科会での新潟盲学校の先生の発表を鮮明に覚えております。また、その発表に係り、当時の文部省視学官久米公先生が「障害のある方への教育にこそ教育の原点がある」と講評で述べられたことが印象的

でした。それから十一年後の平成十三年には、三重県において大会を実施することになり、分科会で拙い発表をしたことも思い出の一つです。文科省教科調査官の長野秀章先生からは、私の出身大学の恩師でもあることから厳しくも温かいお言葉をいただきました。振り返れば若輩の浅はかな発表内容でありました。

そのことから考えると、現在の全高書研での発表は、学習指導要領の趣旨を生かし、よく練られた内容、考察、課題提示となっており、質の高いものばかりと感心いたします。

さて、近年、私たちはデジタル社会に生きています。様々な情報が瞬時に手に入るこの時代、書道や芸術教育においても変革が求められています。学習指導要領においては、表現力や創造性、深い思考を重視する流れが強まっていますが、

これを背景に、書道教育も新たなアプローチを模索する必要があります。

現代の生徒たちは、スマートフォンやタブレットに囲まれた生活を送っています。従来の墨や筆、和紙といったアナログな材料だけではなく、デジタルツールを取り入れることで、書道教育をより豊かにする可能性が開かれています。

たとえば、デジタルペンやイラストアプリを利用することで、書のスタイルやデザインを自由に探求することができ、より多様な表現が可能となります。また、SNSなどのプラットフォームを活用して、生徒同士や教員との情報交換、作品の発表の場を設けることで、自分の作品に対してフィードバックをもらうことができ、さらなる成長を促すことができます。

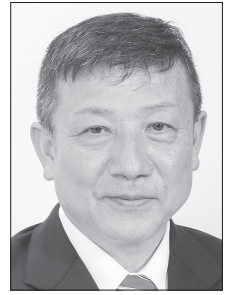
デジタル社会では、情報の消費が瞬時

である一方で、その情報の価値を見極める目を育てることも必要です。だからこそ、書道や芸術教育を通じて、自分自身の感性を大切に、他者の表現を尊重する姿勢を養うことが、重要になってくるわけです。

私たち書道教員としての役割は、ただ技術を教えるだけでなく、書道を通じて生徒たちの人格形成や社会性の育成をサポートすることにあります。それは、伝統と革新を両立させ、柔軟な思考で教育に取り組む姿勢が求められます。

全国的に加速度を増す少子化傾向により、学校数の減少、学校の小規模化などから、書道教員もかなり少なくなりました。そのような中で、全高書研が果たす役割は、全国の同志が共に手を携え、研鑽を積み、書道教育・芸術教育の重要性を示していくことだと考えます。

結びに、全国の高校書道教員の皆様とともに、引き続き書道教育の充実に向けて努力していきますことを心より願っております。どうぞ、お互いに刺激を与え合い、共に成長していきましょう。



第五十回全日本高等学校書道教育研究会和歌山大会 【近畿ブロック開催】へのご案内

第五十回全日本高等学校書道教育研究会和歌山大会
【近畿ブロック開催】 大会長
大石 歩
(和歌山県立和歌山東高等学校長)

随分先のことと思っておりますが、第五十回全日本高等学校書道教育研究会の開催が近くなつて参りました。日頃より全日本高等学校書道教育研究会の皆様にお世話になつておりますことに感謝申し上げます。

今年度で三学年揃つて新教育課程になりました。令和四年度から実施された新学習指導要領の高等学校学習指導要領では、指導方法や指導体制の工夫改善により「指導と評価の一体化」「ICTの効果的な活用」等を通して、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実から生徒の主体的・対話的で深い学びにつなげていくことが重要とされています。先生方も日々の授業でICTを活用し、表現や鑑賞の活動を通して、生徒の感性や創造性を育む

べく、様々な取り組みを実践されていくことと思います。

この和歌山大会は、日頃の研究課題を皆さんで共有できる大会にしたいと考え、「学びと成長の書道教育」〜書道教育の役割とこれから〜と幅広いテーマを設定いたしました。発表、企画、運営にあたって、近畿ブロック開催ということ、大阪、奈良、京都、兵庫、滋賀、各府県の先生方の多大な協力体制の元、一丸となつて、オンラインで定期的な会議を行い、情報共有を密にして、準備を進めております。

また全国の先生方に参加していただきやすいようにと、川崎大会からの夏開催を踏襲し、実際の授業見学がない分、発表の内容等には工夫を凝らしているところではあります。全高書研の会長様はじめ、事務局、専門委員

の先生方に、オンラインで継続的な指導をいただいているお陰で、それぞれの先生方の実践内容、成果と課題がより鮮明にお伝えできるものになつてきています。皆様をお迎えする大会会場の前には、徳川御三家紀州藩の「和歌山城」があります。また和歌山県は南北に長く、紀南の地の玄関口、白浜空港をご利用される方は、「白浜温泉」や「円月島」等の景勝地にも是非立ち寄りください。この機会に足を伸ばしていただき、世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」、熊野古道で結ばれた「熊野三山(熊野本宮大社・熊野速玉大社・熊野那智大社)」、熊野那智大社の日本一の落差を持つ「那智の滝」、熊野本宮大社「大斎原(おおゆのはら)」の大鳥居をご覧いただきたいです。また、新宮

市には「お燈まつり」で有名な神倉神社もあります。神倉神社へ上る石段は急です。さらに世界遺産の一角、弘法大師のお住まいになる「高野山」に脚を運ばれると、凛とした別世界の空気を味わうことができます。和歌山には新鮮な魚や果物など、美味しいものもたくさんございますので、多くの発見、出会いにご満足いただければと思います。

今回の和歌山大会が、学校教育の中で書道教育の役割を皆さんともう一度考え直す機会になることを祈つてやみません。多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

令和7年度
硬筆・毛筆
書写技能検定試験

文部科学省後援 令和7年度 書写検定のペンこころちゃん

令和7年度1回	
【試験日】	【申込み期間】
6月15日(日)	4/1~5/16
令和7年度2回	
【試験日】	【申込み期間】
11月9日(日)	9/1~10/10
令和7年度3回	
【試験日】	【申込み期間】
8年2月8日(日)	12/1~1/19

●後援
文部科学省・全国都道府県教育委員会
全国高等学校校長協会・全日本中学校長会・全国連合小学校長会・全国高等学校PTA連合会等

一般財団法人
日本書写技能検定協会 〒170-0005 東京都豊島区南大塚3-41-3
https://www.nihon-shosha.or.jp

書写検定 検索
詳細・各種お問合せはこちら



和歌山大会に寄せて

第五十回全日本高等学校書道教育研究会和歌山大会
【近畿ブロック開催】運営委員長

松本 雅至
(和歌山県立星林高等学校)

第五十回全日本高等学校書道教育研究会和歌山大会【近畿ブロック開催】が、令和七年八月二十一日・二十二日に和歌山県民文化会館（和歌山市）で開催されます。昨年度の川崎特別大会で新しい全高書研大会の形が示され、この和歌山大会でも八月開催に加え、研究集録を可能な限り縮小し、詳細はWEBでの公開とすることになりました。

和歌山での開催は初めてということもあり全くの手探り状態ではありませんが、近畿ブロックの先生方の絶大なバックアップをいただきながら開催に向けて、目下準備を進めているところです。

さて、和歌山大会では、「学びと成長の書道教育」(書道教育の役割とこれから)の大会テーマのもと、二つの授業研究発表に加え、分科会は二つずつを三つ、計六つの研究発表、さらに六つの誌上研究発表を用意しております。授業研究発表の書道Ⅱ「漢字仮名交じり書」では、「かるた」

を利用した地域・学校に特化した授業研究を発表します。また、分科会の書道Ⅰ「漢字の書」では、『蘭亭序』を共同作品制作する中で、デジタルポートフォリオを活用した授業発表をはじめ、「仮名の書」、「漢字仮名交じり書」の発表を通して、生徒と共に発表者自ら「学びと成長」を感じる研究発表を行います。さらに、誌上研究発表も近畿各校にまたがって、特色ある発表を用意しております。

和歌山大会企画としては、「若手教員と大学教員によるトークセッション」を二日目の午後開催します。近畿ブロックの若手教員を中心に事前にアンケートを採り、高校の授業における悩みや課題、大学が高校教員に求めるものは何かなど、これからを担う若手教員の生の声や熱い思いをトークセッションという形で展開します。これまでの全高書研大会ではなかなか実現しなかった企画だと思えます。閉会式後で

ですが、全国の先生方を巻き込んで、大会テーマ副題にも謳っている「書道教育の役割とこれから」につながる内容になればと考えています。たくさん先生方にご参加いただけることを期待しております。

和歌山大会に併せて、八月二十日(水)から二十五日(月)まで「和歌山県高等学校総合文化祭書道展」を同会場一階展示ギャラリーにて開催します。「全日本高等学校書道コンクール大賞受賞作品」の併催、さらに二日目だけではありませんが、堀池雅夫氏による「紀州松煙墨・彩煙墨」の展示も同会場にて行う予定です。堀池氏は、田辺市鮎川(旧大塔村)の墨工房「紀州松煙」にて、長年にわたり松煙墨を製墨しておられる方です。今も展示会等で全国を飛び回っておられます。「彩煙墨」は

煤に顔料を混ぜ、淡墨にするほどのかな色を呈する墨で、平成十三年の「第二十二回近畿高等

学校総合文化祭和歌山大会」の際、交流会で参加生徒が使用し、お土産として持ち帰っていたきました。和歌山で「松煙墨・彩煙墨」を製墨されている堀池氏の墨を是非ご覧ください。

大会会場そばには「和歌山城」が眼前に聳え、先生方をお出迎えします。「和歌山城」の向かいには、建築家の黒川紀章氏設計の「和歌山県立近代美術館」、会場近くには和歌山県書道資料館(天石東村記念ホール)もございます。山部赤人が詠んだ「若の浦に潮満ち来れば濁をなみ葦辺をさして鶴鳴き渡る」の万葉歌でも有名な和歌浦も近いですが、他にも新鮮な魚や果物など、和歌山には美味しいものもたくさんございますので、それらも是非堪能してください。先生方のご来県を心よりお待ち申し上げます。

す。

上品で力強くつややかな墨色。黒味にこだわった書道液

作品用書道液 それぞれの濃度に適した伸び、
運筆の良さで書き易く、製品の
安定性、乾き、表具性に優れた
樹脂系作品用液体墨です。

玄徳

普通濃度 中濃墨 超濃墨
濃 墨 濃 墨

選べる
4種の濃度

呉竹公式HP

株式会社 呉竹 〒630-8670 奈良市南京終町7-576
TEL:0742.50.2050 FAX:0742.50.2070

使い継がれて半世紀以上、安心安定の墨液。

玄宗
シリーズ
Since1972

玄宗

作品用/合成糊使用
力強い紫紺系の墨色
4種類の濃度タイプ

墨液・中濃墨液・濃墨液・超濃墨液
各200ml、500ml、2L

墨運堂 検査

株式会社 墨運堂 〒630-8043 奈良市六条1-5-35
TEL:0742-52-0310 FAX:0742-45-6880

授業研究

A【漢字仮名交じりの書】「書道Ⅱ」

言語活動の充実を目指して～地域の魅力を発信！ 田辺かるたを作ろう～

和歌山県立神島高等学校

教諭 笠井 千景



本校は大正五年に田辺実業学校として創設され、様々な変遷を経ながら昭和三十一年に和歌山県立田辺商業高等学校として発足、昭和五十四年には普通科が併設されることとなり、平成十八年に神島高等学校と校名が変更され今に至っています。商業科専門教育と普通科教育をともに行う地域の伝統校として信頼され、地域に根ざした学校を

目指して様々な活動に取り組んでおり、中でも地域に関わることをコンセプトとした「神島屋」の活動が、和歌山県内外にも広く知られるようになっていきます。神島屋で開発した商品が田辺市のふるさと納税返礼品になっていたりと、また別の商品も東京スカイツリー内で販売されていたりします。神島高校の名前をどこかで見かけた時には、あの和歌山県の学校だなと、思い出していただけると幸いです。

の知見、専門性を最大限に生かした地域リソースの発見、開発及び活用等を素材とする教育活動に取り組むことは、本校の学校運営方針にもなっています。

書道Ⅱにおける、漢字仮名交じりの書のこの単元では、単に地域をPRする文章を作るのではなく、「かるた」という形式にすることで、美術科や音楽科とも連携し、教科横断的に合同での作品制作を行ってきました。芸術の授業時間数や教諭の数が減っている学校の多い中、芸術科の連携を強化し、その取り組みを学校内外でアピールすることも狙いの一つです。

また私自身の授業改善の課題として、ICTの効果的な活用と言語活動の充実を図りたいと考えています。和歌山県はまだまだインターネット環境の整備が不十分で、書道教室等の特別教室にWi-Fiが整備されていない学校もあります。本校でも令和六年度の三学期によりやく整備され、書

道教室で生徒用パソコンが使用できるようにになりました。これまでは生徒用パソコンを活用した授業展開がしづらかったのですが、これからは積極的に取り組んでいきたいと思っています。

言語活動に関しても、これまで取り組んできたグループ活動に加え、自作の文章を用いた作品制作を行うことで、地域の魅力を改めて知り、発信し、音・美・書の垣根を越えた連帯感と達

成感を得られるように取り組みでまいりました。これらの活動を通して生涯にわたり芸術を愛好する心情を育み、地域・社会を構成する有為な成人への成長に寄与したいと考えています。

試行錯誤しながらの取り組みで恐縮ですが、多くの先生方からご指導、ご助言いただき、これからも授業改善に努めてまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いたします。

B【漢字の書】「書道Ⅰ」

探究的な学びによる古典の書風理解

京都府立綾部高等学校

教諭 森 啓



この度、第五十回全日本高等学校書道教育研究会和歌山大会にて授業研究の発

表をさせていただくことになりました。

本校の校是である「探究究理」は現在のゲンゼ株式会社社の創始者であり、本校創始者でもある波多野鶴吉翁の言葉で「真理をたずね、ひたむきに進み行け」という意味です。その精神は現代まで脈々と生徒たちに引き継がれ、「探究」の名のもと、学校生活を送っています。授業研究の題名にあります

「探究的な学び」は令和四年度から設置された「総合的な探究の時間」の考え方に沿ったものです。「総合的な探究の時間」は、自己の在り方や生き方と一体的で不可分な課題を自身で発見し、解決していくような学びを展開していくことであると言われていました。「探究的な学び」は、自身が設定した課題に対して、多様な他者と協働しながら目的に応じた納得解を見いだすことができる良さがあると考えます。

今回、このような機会をいただき、府内はもとより、近畿ブロックや本部の先生方から御指導、御助言をいただきました。これまでの自身の授業を振り返ってみると、授業者による内容の確認や臨書活動を主とした一方的な授業で、生徒が受動的になるような形式が多く、生徒がその時間に充実感を感じ、学習したことに納得感を得ていなかったと考えます。私は、生徒が受け身にならず、主体的に学ぶことで知

識を実感的に理解し、技術も身につけられるような授業を目指したいと考えています。大会のために特別に準備した授業ではなく、日頃の授業を見直し、自身のベースとなる授業につながる研究にしたいとも考え、本単元を設定しました。授業内容は、ペアワークを用いた対話的な学習を軸として、探究の観点をを用いて活動を進めます。唐の四大家より一つの古典を選択し、その古典にテーマを設定し、書籍や動画を探りながら、臨書を行い、最終的にそのテーマについてロイノートを活用して発表し、全体で鑑賞するというものです。

本単元終了後の生徒の感想を紹介します。「僕たちは今『教科書にこう書いてあるから』『習ったからこう書く』というような書き方だけでなく、昔は、人物やその系統によつて書風が違って独自の書き方、受け継がれる書き方があったことに驚きました。また、日本では漢字の書き方をみんな同じよ

うに習っているの、中国のような独特な書法がなくて、少し悲しいなとも思いました。この学習で、改めて字というのは人の気持ち、性格がのるんだと思いました。そして、文字の書き方は人それぞれであり、みんなが字と自分の個性を結びつけられると手紙、年賀状などが

もっと楽しくなるのではないかと思います。」

まだまだ試行錯誤の段階であり、十分な実践を積んだ上での発表ではありません。全国の先生方と「探究的な学び」を活かした授業について一緒に考え、忌憚のない御意見をいただけますと有難いです。

C「仮名の書」「書道Ⅱ」

主体的対話的で深い学びを実現するための仮名の書の実践事例〜太田垣蓮月と香紙切の学習を通して〜

灘中学校・高等学校
教諭 **阿部 泰秀**



発表をさせて頂くこととなりました。実践を行った兵庫県立洲本高等学校は兵庫県で五番目にできた高校です。伝統と歴史ある学校で、著名人も多く輩出しております。「至誠、勤勉、自治、親和」という校訓を掲げ、ジリツ（自立・自律）した生徒の育成に励んでいます。実技科目においても、自身で考え、獲得していくことを目標に授業展開を考えてきました。

本校は二年生六クラスあり、

一年の「芸術Ⅰ」は二クラス三展開（音楽・美術・書道）で行っております。二年の「芸術Ⅱ」は選択になります。今回は七名の授業となります。三年では「芸術Ⅲ」「実用芸術」「総合芸術」と三つの選択へと展開し、日常で使える基礎的な内容から、発展的な創作へと幅広い授業を心がけています。

前任校から、本物の亀の甲羅に甲骨文字を刻して、特徴を学ぶ実践を行っており、そこで実際に感じた感触を筆で表現する授業を行っておりました。筆とは違った用具を使い文字を書く（書きつける）ことで、違った表現を体感し、新たな書表現を、生徒自身の手で獲得して欲しいという思いがあります。今回は大学の先輩が実践していた授業内容を元に「太田垣蓮月」の書の実践を致しました。

仮名の書は用具の扱いや臨書等、生徒も教員も繊細な活動が多く、苦勞するところが多くあります。一文字

この度、第五十回全高書研和歌山大会の授業実践発表において、「主体的対話的で深い学びを実現するための仮名の鑑賞」についての

一文字丁寧に学ぶことを心がけておりますが、集中力が持たないことも多々あり、苦勞することも多くありました。その中で、一人でも多くの生徒に仮名の魅力を伝えたいと思いながら試行錯誤をしてきました。この研究会を通して、それらを皆さんと共有しながら、より良い授業作りができるようになることを願っております。

授業をする際、よく引用している言葉があります。『学習とは人類の歴史の追体験である。』ジョン・デューイの言葉です。書道では過去の名品から様々な技術を学び、それを活かして新たな作を生み出します。その作品が、また新たな歴史となり、未来の人々から見た歴史になると。どの分野に進んでも、先人を尊び、自らの手で昇華し、より良いものを未来の人へと受け渡すことが、今を生きる我々の使命であると考えています。この思いを書道を通じて学んでいくと欲しいと考えています。

最後になりますが、この度このような機会を頂きましたこと、また親切丁寧に指導賜りました先生方には心より御礼申し上げます。至らぬ所を真摯に受け止め、

授業改善に努めて参りたいと存じておりますので、今後とも指導ご鞭撻の程何卒よろしくお願い申し上げます。

分科会

A「漢字の書」書道I 書道Iにおける共同作品制作の取り組み とデジタルポートフォリオの活用

兵庫県立神戸鈴蘭台高等学校

教諭 角 宗一郎



この度、令和七年度全高書研和歌山大会の分科会発表において、「書道Iにおける共同作品制作の取り組みとデジタルポートフォリオの活用」と題して研究報告を

させていただきます。「行書の単元の躰きを少しでも楽しく克服していくことはできないか」。これが、私がこの単元を構想したきっかけです。私は教壇に立つて四年目になりますが、楷書から行書へ移行する二学期においては毎年多くの生徒が躰き姿を目にしました。行書はこれまで学習してきた楷書とは異なり、太細の変化や点画の連続、運筆の遅速など多くの要素が複合して成り立っているため、特に書道の経験

が浅い生徒にとっては行書に対し苦手意識を感じる傾向にありました。そこで、行書の単元では蘭亭序を複数人による「共同作品制作」という形で取り組んでみてはどうかと考えました。この活動を通じて、生徒間での言語活動の充実を図り、主体的で相互補完的な学びの環境を構築することで、生徒の躰きを少しでも解消することができるとは思いません。と考え、本研究に取り組む運びとなりました。

さらに、本単元において主体性を育む一助としてICTを活用した「デジタルポートフォリオ」の導入にも挑戦いたしました。本校はロイノートやMetaNoteといった学習アプリを使用していないため、生徒が学びの蓄積(成果物等)を一覧にして確認する手段が乏しい状態でした。そこで、一覧性を高め、学びの軌跡が俯瞰できるような構造のポートフォリオの作成に試行錯誤を重ねました。以前より本校が使用しているMicrosoft

のTeamsを活用しながらそのポートフォリオを配信し、生徒自身が自らの学び(学習過程・思考過程)や変容を可視化して客観的に振り返る環境を整えました。これにより、メタ認知能力を高め、主体的に自己調整していく力を養うことを目指しております。

最後になりますが、この度は発表の場を賜り深く感謝申し上げます。全国の先生方からご指導・ご助言いただけることは教師経験の浅い私にとって貴重な財産となります。躰きや苦手意識のある生徒に対して、書道の魅力や楽しさを如何に伝えるか私なりに模索し実践してまいりましたが依然として様々な課題も残っている状態です。この発表の機会を糧とし、一層の研鑽と改良を重ね、より充実した学びの場を構築していく所存です。つきましては、全国の多くの先生方の参加とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

「仮名の書」書道Ⅰ 仮名の書の少字数による創作から仮名の書の の美の理解へ用筆・運筆を大切にしよう

大阪府立金剛高等学校
教諭 松岡 干雅子



この度、全高書研和歌山大会分科会で「仮名の書の少字数による創作から仮名の書の美の理解へ用筆・運筆を大切にしよう」というテーマで発表させていただきました。

私が勤務している大阪府立金剛高等学校は金剛山や葛城山を望む大阪府の南部、富田林市の高台に立ち、創立四十六年を迎える学校です。普通科専門コース(地域コミュニケーションコース、生命科学コース)に加え、知的障がい高等支援学校の「共生推進教室」が設

置されており、障がいのある生徒も学年に三名ずつ在籍し、共に高校生活を送っています。

生徒は全体的に元気で活発、行事には楽しんで取り組んでいます。しかし、物事を粘り強く深めていく力に少し課題があり、努力を要する場面で持続性がなく、やり切った達成感を味わおうとせずに物事を終わる傾向があります。そのため、芸術科書道の授業では目標を少し高めに設定し、褒めながら少しずつ生徒のやる気を引き揚げ、個人の成功体験に繋がるよう支援しようとしています。

書道Ⅰでは四月の導入の漢字の書の学習から筆の機能(弾力)を理解し、筆と自分の呼吸を合わせて、腕を大きく動かして書くことを大切にしてきました。基本的な用筆・運筆を理解し身につけることは、その後の学

習に大きく影響します。本研究は、漢字の書で学んだ基本的な用筆・運筆をもとに、小筆による仮名の繊細な筆の動きを味わう楽しさを知り、仮名の美の要素を理解することに繋げていきたいと考え実践を行ってきました。創作を臨書より先に行うことにより、筆の動きから生まれる仮名の線の美しさを理解し、古典の鑑賞において形だけでなく筆の動きを読み取る鑑賞ができると考えます。また、授業展開に相互鑑賞を入れることで、自分の作品に責任を持つて主体的に取り組むことができ、自分の考えを相手に伝える力が身につきました。また、自分が気付かなかつた新たな気づきがあり、他者の意見を自己の作品にかしながら学びを深めることができました。

今回の発表にあたり、限られた授業時間で仮名の書の美の理解に繋がるような教材作りに、発表者三人で試行錯誤しました。そして、創作の文字資料の基となる

仮名四十八音の単体を各三種類と生徒が参考にしやすい連綿資料を研究、制作しました。三校ではほぼ同じ資料を使用し、指導方法を相談し合いながら、お互いの授業を参考に授業を進めていきました。校風や生徒の様子はそれぞれ違うものの、授業の成果や悩み、また課題などは共通点が多く、共有しながら切磋琢磨できたことはとても楽しい機会でした。仮名の授業としては指導案の計画時数より二時間ほど多く計画できるのが理想であり、もつと落ちていて

制作に掛ける時間が必要と感じました。また、限られた時間の中で仮名の書の線質に迫ることの難しさを感じ、さらなる授業改善に対する意欲が湧いてきました。今回研究発表をするにあたり、自分の授業を見直すとてもいい機会になりました。今までの指導方法で曖昧であった部分が明確になり、改善できたように思います。また、様々な面で多くの先生方にご指導・ご助言をいただき、感謝するとともに、今後の教育活動に活かしていきたいと考えております。

B「漢字の書」書道Ⅱ 主体的な表現・鑑賞の学びへ清代隷書作品による做書学習

奈良県立畝傍高等学校
教諭 上明代 和宏



本校は明治二十九年の開校以来、今年度で創立百二十九年を迎える歴史と伝統を誇る高校です。アドミッションポリシーの二に「自ら学び、自ら考え、自ら行動する姿勢を持つ生徒の育成」を掲げ、日々その実現に努めております。書道の

授業においても、生徒たちは熱心に取り組み、高い書写能力を持つ生徒も少なくありません。

今回の全高書研での発表に際し、本校の書道教育を振り返る中で、生徒の主体性をさらに伸ばすために、以下の二つの課題を解消する必要がありますと考えました。一つは、表現と鑑賞の学習がうまく循環していないこと、も

う一つは、臨書学習で培った力が創作作品の制作に十分に生かされていないことです。

前者については、臨書学習の際に扱う古典が拓本である場合、用筆や運筆の特徴が捉えにくく、鑑賞学習で得た分析内容が表現活動へと十分に反映されていない場面が見られました。後者に関しては、本来創作作品を制作する際に必要とされる表現の意図や工夫が不十分で、単に集字した文字を模写するにとどまる活動が見受けられました。これらの課題を解決する手がかりとして、本単元を設定しました。本単元では、清代隷書作

家である何紹基と楊岷の漢碑臨書作品を題材とし、大字の肉筆資料を学習することで、主体的な表現と鑑賞の学びを促しました。さらに、何紹基や楊岷が漢碑をどのように解釈し、自らの書風を築いたのかを生徒たちが考察し、追体験する活動を通じて、創作の際の表現の工夫を学ぶことを目的としました。

授業では、まず何紹基・楊岷の漢碑臨書作品を鑑賞し、臨書作品と原本である漢碑との比較分析を行いました。その後、漢碑のみを提示し、何紹基風・楊岷風に書き換える做書を難易度別に三段階に分けて実施しました。また、作品制作の過程では、相互鑑賞や意見交換を行わせ、表現の意図や工夫について深く考察させ、ワークシートに言語化させました。

この実践を通じて、清代隷書作家の肉筆資料を活用することで、用筆や運筆の詳細な分析が可能となり、鑑賞と表現の学習がより効果

的に結びつくことが確認できました。また、次の単元である創作の作品制作においても一定の学習の成果が見られ、本単元が創作における表現の工夫の手がかりがある程度与えることができたと感じています。

今回の研究発表により、清代隷書作家の做書学習が、臨書から創作へと発展させる

【漢字の書】書道Ⅱ

合同作品制作において、協働する活動を通して創造する「こと」の喜びを実感できる授業

大阪府立今宮高等学校
教諭 増井 悠航



この度、全高書研和歌山大会【近畿ブロック開催】分科会発表において、「合同作品制作において、協働する活動を通して創造することの喜

有効な手法であることを提案したいと考えています。今後にもさらに多様な肉筆資料を活用し、生徒の創造性を引き出す指導方法を模索してまいります。全国の先生方からのご指導、ご助言を賜りながら、より充実した授業実践へとつなげていきたいと存じます。何卒よろしくお願ひ申し上げます。

びを実感できる授業」と題して、実践報告をさせていたできます。

本校は創立百十九年を超える伝統校であり、校訓「誠実剛毅・和親協同」のもと、「磨け知性・輝け個性」の理念を掲げた教育を実践し、様々な社会的変化をたくましく乗り越えるための知性や体力、自分らしさや他者への思いやりを大切に育み、大きな心と健やかな体を育み、大きな夢と高い志を持って持続可能な共生社会を創る人

材を育成することをめざしています。また、共生推進教室設置校でもあり、高等支援学校の生徒が、高等学校の生徒とともに学び、卒業後の就労と、学校生活の中で交友を深めていくことをめざしています。

芸術科書道においても、「様々な社会的変化をたくましく乗り越えるため」の自ら問いを立てて行動し、新たなものを生み出そうとする探究力。また、「自分らしさや他者への思いやりを大切に育むための豊かな心」を育むため、多様性を尊重し、生徒同士で感性を高め合おうとする力。これらの育成をめざしたいと考えております。

そこで、本実践では単元の締めくくりとして、開通褒斜道刻石の做書による合同作品制作（本の筆を交替で持ちながら、一枚の紙に揮毫する協働制作）を実施し、①教科等固有の見方・考え方を働かせて自分の頭で考えて表現する力、②対話や協働を通じて知識やアイデアを共有し新しい解や納得

解を生み出す力、③生徒それぞれが創造することの喜びを実感できること、この三点に関して、教育的効果の検証を行おうとするものです。書に関する見方・考え方を深め、一緒になって二つの作品を制作することを通じて、生徒たちが人との関わりにおいて大切なことや、協働することの価値について考えることができるのではないかと、また

その経験が、充実感や達成感へと繋がり、喜びへと結びつくのではないかと考えました。この度は貴重な機会をいただき、心より感謝申し上げます。今後も皆さまからいただいたご意見やご助言を授業改善に役立ててまいります。引き続きご指導・ご支援のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

【漢字仮名交じりの書】書道Ⅱ

生徒の自己肯定感を育む授業を目指して〜対話を軸に自作の言葉で作品を制作しよう〜

京都府立南丹高等学校
教諭 糸川 奈央



この度、全高書研和歌山大会の分科会発表Cにて「生徒の自己肯定感を育む授業

を目指して〜対話を軸に自作の言葉で作品を制作しよう〜というテーマで発表させていただきます。

本校は京都市の西隣亀岡市に位置し、令和七年には開校四十七年目を迎えます。総合学科を設置し、「未来をDesign」をテーマに、自分の興味・関心、個性を生かした科目選択による学びや実践的・体験的な学びを大切にしています。将来の

生き方を考え、一人ひとりの個性を生かした主体的な学びを通して、進路保障につなげるとともに、地域を支える貢献できる人材の育成に努めています。明るく活発な生徒が多いのですが、「書道Ⅱ」は芸術科の科目だけでなく、他教科の科目も含む中での選択科目となっているため、座学や運動は苦手だからという消極的な理由で選択した生徒も少なくはありません。また、より良い作品を作りたいと時間をかけて作品制作をする生徒もいる一方で、粘り強く作品制作に取り組めない生徒も見受けられます。その背景に自己肯定感の低さが挙げられます。失敗を恐れ、挑戦したことの結果次第で相手にどう思われるかがわからないからと、挑戦すること自体にためらいを感じることもあるようです。そんな生徒の自己肯定感を書道の授業内で育むことができないかと考

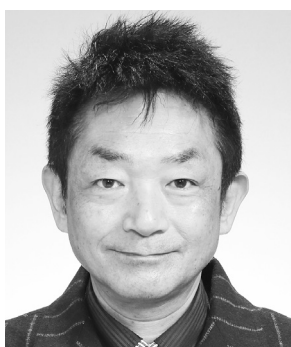
え、本テーマを設定しました。生徒の自己肯定感を育むためにどんなことを大切にさ

れていますか。指導者に褒められることがゴールだと思っ

和歌山県で書道の教員採用試験がなかなか実施されず故郷で教壇に立つ夢は叶いませんでしたが、こういった形で故郷に関われることに幸せを感じます。一人一台の学習用端末が導入されてから始めた単元なので実践はまだ2年しかしておらず、まだまだ改善の余地がある単元です。当日は全国の先生方からご指導、ご助言をいただき、今後の教育活動に活かしたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

【漢字仮名交じりの書】書道Ⅰ
古典に準拠せず、自分なりの漢字仮名交じりの書を書く

滋賀県立伊吹高等学校
教諭 押谷 達彦



伊吹高校は開校四十年目を迎える普通科高校。設置当初は六クラス規模だったが現在三クラスとなり、三クラスが体育コース、学力充実クラス、学力発展クラスに分けられてカリキュラムも夫々異なります。そのため芸術の講座は一クラス三展開となり、恵まれた授業環境とな

りました。芸術科書道では、対面型座席配置とグループワークによる探究活動をメインとして授業をすすめています。滋賀県書教育研究会がすすめる『硬筆でしっかりと、毛筆で楽しく』を中学校書写から引き継ぎ、年間1/5を硬筆で整齊な書字指導、毛筆では創作活動を中心に行い、年間三回の公募展応募を通じて、生徒の主体性や自己肯定感を育成する機会としています。

さて、漢字仮名交じりの書は、生徒がふだん口にしたたり書いたりする日常言語を扱うという点で、親しみやすい活動です。本校では漢字仮名交じりの書をより親しみやすく『現代文学作品』と呼んでいます。ところがこの活動は「表現する面白さ」よりも「読める」ことにこだわりが出やすい活動でもあり、書こうとする言葉や文章の文字を、ただ並べただけの作品も目に見えます。教科書では近現代の書家や文士の作品例を『参考』にして、特定の古典の

書風で書くことをすすめることが多いのですが、漢字と仮名は本来調和しづらいものである上、必ずしも自分の作品に込める表現意図に合致した古典があるわけでもありません。現代に生きている生徒の生きた文字を表現するには、彼ら自身の中から湧き出るリズムと白と黒の構成センスによるものであるべきだと考えています。毛筆で漢字仮名交じりの書を書くにあたって、生徒相互の対話と実践による探究活動をとり入れながら、意図に基づいた表現を工夫する力を育み、書を通して心豊かな生活や社会を創造する態度と自己肯定感を養うのを目的として授業を行っています。

本校では、二学期の大半を漢字仮名交じりの書の活動を費やします。書道Ⅰで探究を通じて基本的な表現方法を模索し、書道Ⅱ以降はテーマ創作として、自作の詩や文章で表現する活動を行っています。一学期に漢字の書を探求し、全紙一字大

作を仕上げ、二学期は古代文字の臨書を通して自用印の制作、仮名の臨書をしたところで、本単元を設定しています。この単元では、グループによる探究活動とその共有を通じて、漢字仮名交じり書の基礎を自分なりの表現で身につけ、今後の創作活動に、より主体的・意欲的に取り組んで、表現するよこびを得させていきます。

二十年に及ぶ本校での実践の集大成として発表いたしますが、何分授業は生き物です。思うようにいかないことも多く、全国の先生方からのご指導を受けてこれからはますます「進化」する授業をしていきたいと思えます。

編集後記

全高書研会報九十八号をお届けします。全高書研副会長の森典英先生(三重県立伊勢高等学校校長)をはじめ、ご多忙の中原稿をご執筆頂きました先生方には深く感謝申し上げます。

今号から、会報発行を全国研究大会の開催時期変更に合わせて五月・十二月の発行と変更させて頂いております。原稿ご執筆の先生方には年度末・年度初めの慌ただしい時期に原稿の提出・校正などの作業にご協力賜りましたこと、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

さて、いよいよ全高書研和歌山大会の開催が間近に迫ってまいりました。今年度は八月二十二・二十三日に和歌山県和歌山市・和歌山県民文化会館にて行われます。「学びと成長の書道教育」の大会テーマのもと、近畿の先生方による発表が多く予定されております。主体的・対話的な学びを軸として、どのように生徒一人一人の力を伸ばしていくかの実践や、それらの取り組みをより効果的にするためのICTの活用方法など、従来の授業実践からさらに一歩進んだ発表が多く見られることを大変楽しみにしております。

昨年度から開催時期が従来の秋から夏に変更となったこともあり、よく多くの先生方にご参加いただけますことを願っております。

また大会を控え運営や発表をご担当頂く先生方におかれましては、日頃の業務に加えてのご準備となり、ご苦労も大変なものかと拝察致します。年に二度の研究大会が多くなる先生方にとって実り多きものとなりますよう、心より願っております。

(天野)



富山県 令和六年度 事業報告

富山大会実行委員長
富山県立高岡高等学校

大田 亘

○これまでの取り組み

一昨年、令和八年度第五二回富山大会開催が決定し、「我々自身が学びを深め、発表者を県全体でサポートしよう」を合言葉に、県内研修部を中心に研修計画を立て、その機会を増やしてきた。令和五年度には観点別評価の実践例報告会やICT研修会を実施。また会員全員が学習指導要領の改

変を意識した授業の学習指導案を提出し合い、その実践例を共有した。十数頁にわたる指導案には苦勞したが、全高書研HP上の学習指導要領フォーマットに助けられた。

令和六年春に、大会の全体および分科会の三テーマを皆で考え、以降三テーマごとに非常勤講師を含めた四五人のグループを作り、黄色い解説書片手にグループ別研修会を重ねた。研修での学びを元に各自勤務校では授業実践に試行錯誤を重ねた。令和八年度まで各発表者のサポートを中心に継続実施する。

当初「全高書研大会って何？」に始まり、研修は何をして良いかも分からずここまで来た。学習指導要領への理解が不十分な者同士の研修は未だ手探り状態であり、効果的な学びになっているか今も不安である。「井の中の蛙」にならないよう「外へ出て分かる人とながるしかない」と、ここ数年何人かは県内外の各種研修

会（学習指導要領、STEAM教育、探究活動等）や全国指導主事等伝達講習会や全国芸術系大学コンソーシアム等にも積極的に参加してきた。私自身ユニチューブで豊口先生の解説をスマホに保存し何度も視聴した。

今後発表者に対して全高書研推進委員会の支援が行われると聞いている。さらに全国各地で開催される各種研修により、我々の学びの深まりが大会テーマの「ウェルビーイング」につながることを願っている。

○主な令和六年度実施行事

●前期理事会

五月十五日(水)

●前期総会

六月二十八日(金)

●第七二回研究発表大会

十月三日(木)

●授業実践発表・協議

二月二十二日(金)

●授業実践の見学・協議

二月二十二日(金)

●後期総会

二月二十日(木)

・「ウェルビーイングってなん

だろう？」富山県庁推進課より講師を招いて講演会

・部会誌五号発行

●各会でグループ別研修会の実施

●第四九回全高書研川崎特別大会参加

八月八、九日(木、金)

一〇名参加。初参加の者が多く大いに刺激を受けた。北信越ブロック研修会では大田亘、中野里咲教諭が富山大会を念頭に授業実践報告。

●その他

第六九回県高校書道展
第二二回鑑賞会(公募展)
第二八回合同錬成会
第三十三回県書写書道教育研究会指導者実技講習会

第六十六回小中高書き初め大会

○富山大会について(補足)

第四十七回岐阜大会より全高書研の大会がブロック開催となった。ブロックで発表の担当、大会運営することはもとより、企画展ではブロック各県の協力による「校内(地域)の書の鑑賞レポー

ト展示」を計画。ブロック各県の文士、著名人の書を紹介し合うことで地域らしさの演出と、ブロック各県がつながりブロック全体で協力する機運を醸成したいと考えている。

また小分県では、「(仮)私の一推し授業」と題し、少人数のグループごとにポスターセッション形式での授業実践例の発表を計画。こちらの発表者募集は令和八年六月まで。参加者同士の間で、活発な議論の場を願っている。

大会ではしっかり準備を進め、全国から皆様をお迎えします。同時に、今大会をきっかけに富山県の書道教員がブロックや全国の書道教員とつながり、学びを深めたいと思います。全国から多くの先生方のご参加を心よりお待ちしております。皆様方のご指導・ご支援を賜りますようお願いいたします。

授業研究

- A 【漢字仮名交じりの書】書道Ⅱ 和歌山県立神島高等学校 教諭 笠井 千景
「言語活動の充実を目指して～地域の魅力を発信！田辺かるたを作ろう～」
- B 【漢字の書】書道Ⅰ 京都府立綾部高等学校 教諭 森 啓
「探究的な活動を活かした古典の書風理解～タブレットを活用した書法探究～」
- C 【仮名の書】書道Ⅱ 灘中学校・高等学校 教諭 阿部 泰秀
「主体的対話的で深い学びを実現するための仮名の書の実践事例～太田垣蓮月と香紙切の学習を通して～」

分科会(研究発表)

- A ・【漢字の書】書道Ⅰ 兵庫県立神戸鈴蘭台高等学校 教諭 角 宗一郎
「書道Ⅰにおける共同作品制作の取り組みとデジタルポートフォリオの活用」
・【仮名の書】書道Ⅰ 大阪府立金剛高等学校 教諭 松岡 千雅子
「仮名の書の少字数による創作から仮名の書の美の理解 大阪府立生野高等学校 教諭 森 真記子
～用筆・運筆を大切に～」 大阪府立門真西高等学校 教諭 町田 千智
- B ・【漢字の書】書道Ⅱ 奈良県立畝傍高等学校 教諭 上明代 和宏
「主体的な表現・鑑賞の学び～清代隷書作品による倣書学習～」
・【漢字の書】書道Ⅱ 大阪府立今宮高等学校 教諭 増井 悠航
「合同作品制作において、協働する活動を通して、創造することの喜びを実感できる授業」
- C ・【漢字仮名交じりの書】書道Ⅱ 京都府立南丹高等学校 教諭 糸川 奈央
「生徒の自己肯定感を育む授業を目指して～対話を軸に自作の詩文で作品を制作しよう～」
・【漢字仮名交じりの書】書道Ⅰ 滋賀県立伊吹高等学校 教諭 押谷 達彦
「古典に準拠せず、自分なりの漢字仮名交じりの書を書く」

誌上研究発表

- ・『東舞鶴高校 美書展の取り組みについて～地域に密着した京都府北部における美書展の取り組みより～』
京都府立東舞鶴高等学校 教諭 前田 智
- ・『支援学校における書道教育について』
大阪府立東大阪支援学校 教諭 須崎 奎
- ・『連綿の視点で「仮名の書」を捉えるために～元三太師『七猿歌』創作を通して～』
延暦寺学園比叡山高等学校 教諭 北川 智輝
- ・『書道Ⅰにおける導入期の指導について』
滋賀県立草津東高等学校 教諭 安居 孝昌
- ・『桜井メソッド〔行書篇〕を活用した授業実践～米芾『蜀素帖』～』 奈良県立櫻井高等学校 教諭 鎌田 博文
- ・『ユニバーサルデザインの視点から見た授業展開を考える～情報機器（パワーポイント）の場合～』
兵庫県立阪神昆陽高等学校 教諭 佐々木有沙

(お問い合わせ先) 第50回全日本高等学校書道教育研究会和歌山大会【近畿ブロック開催】
和歌山県立田辺高等学校内 教諭 森 理加子
〒646-0024 和歌山県田辺市学園1-71
TEL 0739-22-1880 FAX 0739-22-0636



第50回全日本高等学校書道教育研究会 和歌山大会【近畿ブロック開催】(最終案内)

和歌山大会テーマ

『学びと成長の書道教育』 ～書道教育の役割とこれから～

昨年開催された第49回全高書研川崎特別大会【事務局開催】にて、新しい学習指導要領の理念を実現するための実践や検討を追究した授業改善について、また全高書研の内容や運営面にも着目し、今後の大会運営についての新たな改革がなされたことは、長い歴史を持ったこの大会の節目となり、新たな出発となりました。

第50回目を迎える和歌山大会では、テーマに掲げたこれからの書道教育の役割とは何か、そして「学びと成長」の息吹が感じられる実践・発表を予定しています。特に授業発表・分科会発表は、新しい学習指導要領等で強く指摘されてきた「指導と評価の一体化」をベースに、主体的・対話的で深い学びの視点から、タブレットを活用した授業や地域の特色を活かした授業、また言葉や思いを協働しながら育む授業等を企画しています。

また、持続可能な大会運営を念頭に、発表形式は動画とパワーポイントを中心としています。さらに、大会集録は可能な限りスリム化し、詳細な資料はWEBよりダウンロードをして閲覧いただくことを考えております。

その他、企画として紀州松煙墨・彩煙墨の展示、大学教員と若手教員によるトークセッションも準備しております。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

会期 令和7年8月21日(木)・22日(金)

会場 和歌山県民文化会館

和歌山市小松原通1丁目1 TEL 073-436-1331

大会日程

◇第1日目 8月21日(木)

9:00～	10:00～10:40	10:50～11:30	11:30～12:45	12:45～13:45	13:55～15:10	15:20～17:00	18:30～20:00
受付	総会	開会式	昼食	授業研究	授業研究 研究協議	情報交換会	教育懇談会

◇第2日目 8月22日(金)

8:30～	9:00～11:00	11:10～12:00	12:00～13:15	13:15～14:45
受付	分科会 研究協議	全体会 閉会式	昼食	企画(トークセッション)

大会講師 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 豊口 和士 先生(予定)

企画 若手教員と大学教員による トークセッション
大阪教育大学 准教授 瀬川 賢一 先生
奈良教育大学 准教授 西村 大輔 先生

併設展 「令和7年度和歌山県高等学校総合文化祭 書道展」「紀州松煙墨・彩煙墨について」
「全日本高等学校書道コンクール大賞受賞作品展」

大会参加費 6,000円(予定)

教育懇談会 8月21日(木)18:30～20:00 ホテルアバローム紀の国

(会費7,500円予定) 和歌山市湊通丁北2丁目1-2 TEL 073-436-1200



第51回全日本高等学校書道教育研究会
富山大会【北信越ブロック開催】ご案内 (第2次案内)

富山大会テーマ

『書道でウェルビーイング』
 ～より良く学び、より良く生きるために、
 書道教育はいかに貢献できるのか～

- 会 期 令和8年8月6日(木)・7日(金)
 会 場 富山県民会館
 〒 930-0006 富山市新総曲輪 4-18(富山駅徒歩10分) TEL:076-432-3111
 大会講師 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 豊口 和士 先生(予定)
 企画展 全日本高等学校書道コンクール大賞受賞作品展、特別展
 大会参加費 6,500円(予定)
 教育懇談会 令和8年8月6日(木) 18:30～20:00(7,000円(会費予定))
 ホテルグランテラス富山
 〒 930-0004 富山市桜橋通り 2-28 TEL:076-431-2211
- 内 容 (1) 授業研究(授業動画)2発表
 (2) 分科会(研究発表) 下記3テーマ×2発表
 I 「個別最適な学びと、協働的な学びの実現を意識した授業」
 II 「スクール・ポリシーを意識した授業」
 III 「書道の伝統・文化に親しむ態度の育成を目指して」
 (3) 小分科会(チャレンジ分科会)
 「(仮)私の一押し授業」授業実践例をポスターセッション形式で発表

大会日程(予定※今後変更の可能性あり)

◇第1日目 8月6日(木)

9:00～ 10:00	10:00～ 10:40	10:50～ 11:30	11:30～ 12:45	12:45～ 13:45	13:55～ 15:10	15:20～ 17:00	18:30～ 20:00
受付	総会	開会式	昼食	授業研究	授業研究 研究協議	情報交換会 ブロック別会議	教育懇談会

◇第2日目 8月7日(金)

8:30～ 9:00	9:00～ 10:35	10:45～ 11:45	11:55～ 12:40	12:40～ 13:30	13:30～ 14:15	14:25～ 15:00
受付	分科会 研究協議	基調講演会	小分科会 (ポスターセッション)	昼食	小分科会 (ポスターセッション)	閉会式 研究成果報告 次期大会案内

(お問い合わせ先) 第51回全日本高等学校書道教育研究会 富山大会【北信越ブロック開催】
 富山県立呉羽高等学校内 教諭 大木 美佳恵
 〒 930-0138 富山県富山市呉羽町 2070-5
 TEL : 076-436-1056 FAX : 076-436-1058